

クラス番号	233	ゼミタイプ	多職種連携型
		担当教員名	富田川 智志
テーマ	労働衛生の視点で医療・介護現場における多職種連携(チームケア)を考える		

ゼミナール概要

目的、内容、方法等：

医療・介護サービスにおいては、患者や利用者の健康・安全の確保が基本ですが、現場で働く人々の健康と安全も同様に不可欠です。しかし、実際には医療・介護現場で働く多くの人が仕事関連の健康障害、特に腰痛や頸肩腕障害等の筋骨格系障害を抱えています。これらの健康問題は、Presenteeism（体調や心身の不調を抱えながら出勤し、本来の業務遂行能力が十分に発揮されない状態）や Absenteeism（欠勤・早退・休職により業務が行えない状態）を引き起こし、結果として、医療・介護サービスの質や労働生産性の低下、医療費の増大、人材不足といった深刻な社会的・経済的損失をもたらしています。

現在、国際的に推奨されている筋骨格系障害予防策は、労働衛生の視点に基づいた、多職種連携型のチームケアを基盤とする人間工学的介入と教育の統合的アプローチです。

本ゼミでは、こうした背景を踏まえ、医療・介護現場における多職種連携（チームケア）の在り方を考察することを目的として、労働衛生の視点を取り入れたフィールドスタディ型の授業を実施します。

授業計画：

1. 医療・介護現場における筋骨格系障害の現状と課題の把握

筋骨格系障害の発生状況や要因、障害予防に関する国の方針や制度、現場の好事例等を調査し、筋骨格系障害と予防策の基本を理解します。学内学習（他職種によるゲスト講義を含む）に加え、愛知県または滋賀県内の施設を訪問し、フィールド調査（予定）および多職種との意見交換を行い、医療・介護現場の現状と課題を把握します。

2. 人間工学的介入法の体験学習

愛知県内の介護実習・普及センターや移動・移乗支援用具/機器等の企業を訪問し、さらに福祉用具関連の研修に参加（予定）します。これらを通じて、介護テクノロジーを含む最新の福祉用具を実際に体験し、筋骨格系障害予防のための人間工学的介入法を理解します。

3. 多職種連携の在り方の議論・発表

上記1および2の学びを踏まえ、労働衛生の視点から医療・介護現場における多職種連携の在り方をグループディスカッションで考察します。グループ毎にプレゼンテーションを行い、全体で共有・討論することで内容をブラッシュアップします。

担当教員からのメッセージ

私は、医療機関（リハビリテーション病院）において介護福祉士として臨床経験を積み、研究では「組織全体としての筋骨格系障害予防」に取り組んでいます。医療・介護分野は、他の分野に比べて労働衛生の取り組みが遅れていると指摘されており、その水準をいかに向上させるかが大きな課題となっています。本ゼミでは、医療・介護分野の労働衛生の在り方を一緒に考えていきましょう。

働く人の健康や安全、リスクマネジメントについて学びを深めたい人、また興味・関心を持つ人を歓迎します。本ゼミでは、チーム（グループ）での探究を重視するとともに、学術的スキル（調査・分析・プレゼンテーション力）の向上も目指します。